

外国語

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-06-11 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24517/00062427

This work is licensed under a Creative Commons
Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0
International License.



6の2 外国語科学習指導案

場 所 6の2教室

指導者 乗富 智子

単元名 ベストメモリーを伝えよう (JUMP Presentation2 My best memory is…)

(1) めざすコミュニケーションの姿

教師の質問に対して英語で答える姿 友達に自分の意見(ベストメモリー)を伝える姿

(2) 本時のねらい

自分のベストメモリーについて、教師とのやりとりを通して詳しく紹介することができる

(思考力、判断力、表現力等)

(3) 学習の展開

時	学習のながれ	・手だて ◎評価 ★めざすコミュニケーションの姿にせまるための手だて
10	1. あいさつ、Small Talk ○アイスクリームの歴史	★Small Talk の中に友達同士でやりとりさせる場を設けることで、英語での質問や応答に慣れるようにする。
	2. 課題を確認する ○ベストメモリーは何にしたかな ・ My best memory is camping. ＜ベストメモリーについて くわしく言えるようになろう＞	
15	3. 教師のモデルを見て内容を再考する ○ジム先生は何を聞いているのかな ALT: Where did you go? HRT: I went to Kigoyama. ALT: What did you do there? HRT: We climbed a mountain. など ・ 思い出についてくわしく聞いていたよ ○みんなもジム先生からの質問に答えよう ALT: Where did you go? What did you do? など	・ 教師同士のやりとりをモデルとして示すことで、子供がベストメモリーを紹介する視点を広げられるようにする。
10	4. ベストメモリーを友達に紹介する ○友達にベストメモリーを紹介しよう ・ My best memory is camping. We went to Kigoyama. We climbed a mountain. It was hard.	★教師同士のやりとりの後、子供を巻き込んでやりとりをしたり、教師と子供がやりとりをすることで、必要な言語材料に気づき、表現を選択・活用しながらより具体的な理由について話すことができるようにする。
5	5. ふりかえり 具体的な思い出を入れて、ベストメモリーをくわしく紹介することができたよ。先生からの質問にも答えることができたよ。	◎自分のベストメモリーについて理由や具体的な出来事を入れながらくわしく紹介することができる。 (思考・判断・表現)

【実践のウリ】

小学校生活の思い出（ベストメモリー）を紹介する学習である。2学期の学習で、動詞の過去形や様子を表す言葉などを学んできた。それらを総合して自分のベストメモリーを紹介する。ベストメモリーを詳しく紹介するために、教師(ALT)とやり取りをした。Where did you go? や What did you do? などの質問に答えることで、自分のベストメモリーを詳しく言えるようになる。

【実践例】

2学期のはじめに、2学期の学習のゴールとして、「ベストメモリーを紹介する」ことを子供に提示した。2学期の各単元の学習を通して、ベストメモリーが紹介できるようになる、という単元の構成となっている。

最終単元に位置づく本時では、ベストメモリーについてより詳しく言えるようになることをねらいとした。まず、教師同士のやり取り（モデル）を見て、「何を言っているのか（内容）」「どんな英語を使っているか（表現）」の2点に着目させながら聞かせた（資料1）。前者が子供のベストメモリーの内容のモデル、後者が英語で伝える際の表現のモデルとなる。その後、何人かの子供を指名し、教師（ALT）からの質問に一对一で答えさせた。その様子を他の子供が見ることで、ベストメモリーの内容や伝えるために必要な表現について学ぶことができるようにした。次に、教師（ALT）が子供全体に向けて質問をした。子供は、質問を聞いて、答えられることを一人でぶつぶつと話した。実際に口に出して英語を言うことで、伝えたい内容や、使える表現、伝えたいけれどもわからない表現がより明確になった。

子供は、ALTからの質問に戸惑いながらも、必死に使える表現を駆使して答えようとしていた（資料2）。質問に答えようとする中で、既習表現である I went to ~. や I enjoyed ~. It was ~. などを思い出し、それらを用いて表現することができた。

【成果】

どの子供も自分のベストメモリーについて詳しく話せるようになった。全単元を通して「聞くこと」を重点的に指導し、たくさんの表現に触れさせたことで、子供が表現を選択・活用して話すことができるようになった。

【課題】

子供同士がやり取りできるように、段階的に指導していく必要があった。また、子供が「伝えたいけれども知らない言葉」を指導するのに時間がかかった。

【資料】



資料1 教師同士のやり取りを聞く



資料2 ALTからの質問に答える

